家　畜　衛　生　情　報

管内で牛伝染性鼻気管炎（ＩＢＲ）発生！

～本県で９年ぶりの発生～

発生の概要

発生時期	平成１７年１月下旬 ～２月上旬
発生農場	酪農家　　１戸
発生頭数	乳用牛（ﾎﾙｽﾀｲﾝ種、ｼﾞｬｰｼﾞｰ種）　　５頭　(20～90ヶ月齢)
臨床症状	発熱(40～41℃)、発咳、鼻汁排出、食欲不振 発見時以降、毎日発咳
病性鑑定 結　　果	鼻汁からＩＢＲウイルス分離 ペア血清の抗体上昇
防疫措置	当該農場および周辺農場における緊急ワクチンの接種 継続発生はなく終息

症　状

牛ヘルペスウイルスが原因し、２日程度の潜伏期を経て、食欲の減退、発熱、多量の鼻汁を排泄、流涎、発咳及び異常呼吸音などがみられます。

成牛では極端に乳量が減少し角結膜炎、亀頭包皮炎、流産など、新生子牛では、脳脊髄炎による神経症状など多様な症状を呈します。

通常致死率は低いが、抗体を保有しない若齢牛が感染すると症状は重く致死率は１５％にもおよび、回復後も発育が著しく遅れます。

一度この病気にかかった牛は、治癒後も飼育環境の変化や輸送などのストレスで再発し、ウイルスを排泄するので感染源となります。

対　策

ＩＢＲワクチン未接種牛に →　**ワクチン接種の徹底**

発生予防、まん延防止のため　→　**飼養衛生管理基準の遵守指導**
（異常家畜の早期発見、消毒の励行等）

全国の発生状況　（１９７０年に初めて発生し、現在では全国的に散発）

平成１４年	１９県	４９戸	６８６頭	
平成１５年	２０県	６１戸	６４８頭	（発生頭数　北海道が約４１％）
平成１６年	１５県	５１戸	４７９頭	

異常などを確認された場合には、至急ご連絡ください

飛騨家畜保健衛生所

TEL(0577)33-1111　Fax 32-9019

E-mail:c24508@pref.gifu.lg.jp